

〈事例報告9〉「難解な評論を、できるだけ正確に読み解こう」（現代文B）

1 実践にいたる背景

この数年、「考える力をどう付けさせるか」という課題が頭から離れなかった。熱心に授業を受け、ノートを取り、定期考査に向けての勉強も怠らないといった「優秀」な生徒の中に、進路を決定すべき時期になって空回りをしてしまったり、努力が実を結ばずに涙に暮れてしまったりする者がいたからである。

もちろん、知識は必要であるし、問題に立ち向かう解法を身に付けることも重要であろう。ただし、それらは生徒がやる気をもって自学を重ねれば、自力で比較的たどり着きやすいものかもしれない。

それに比べ、「読解力」というものは測りがたく、つかみ所のないものであるが、文章のポイントを押さえ、骨子を自分のものとし、周囲に説明できる力を養えば、大学入試や就職試験にとどまらず、生徒のこれからの長い人生に益するところが多いと考え、本実践を企画した。

2 指導目標と評価

(1) 身に付けさせたい力(論理的思考に関わる目標)

ア 自分の考えを述べる際に、論拠を示しつつ、論を破綻なく展開させる力。

イ 論理的な内容を含むものを読んだり、聞いたりした際に、「何についての話題で」「(筆者・話者が)どのような考えをもっているか」を的確に捉える力。その上で、「なぜそのように言えるのか」という論拠を必要に応じて読み取る力。

ウ 自分の言いたいことや、読み取った筆者の考え方・聞き取った話者の考え方を、分かりやすく他者に説明する力(正確に、分かりやすく説明する力)。言い換えれば、本文中の難解な語句、筆者独特の言い回しを分かりやすい表現に書き換える力と、筆者の論の中心及びそれに至る説明の展開を整理し、分かりやすく説明し直す力。

この場でいう「論理的思考力」とは、鍛え、伸ばすことができる能力としたい。別の言い方をすると、客観的に評価することができる能力である。読み取りや説明が、他の人からも妥当であると認められるかどうかで測りたい。

では、発想力や感性の豊かさなどはどう扱うか。

このような個性に基づくものは、妥当かどうかを他者が判断するのにそぐわない。では、この場では不要かというところではない。鍛えた論理的思考力の上に、個々の発想力や感性が開花すると考え、「個々の個性は大切だが、その個性をより発揮するためにも、論理的思考力をよりしっかりしたものにしよう」と指導したいと考えている。

(2) 関係する学習指導要領の指導事項

文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。(現代文B(1)ア)

(3) 関係する論理的な思考の活動

趣旨や主張を把握し、評価する(③把握・評価)

(4) 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・本文中の難解な語句，筆者独特の言い回しを分かりやすい表現に書き換えようとしている。 ・筆者の論の中心とそれに至る説明の展開を整理し，他者に説明しようとしている。	・本文中の難解な語句，筆者独特の言い回しを分かりやすい表現に書き換えている。 ・筆者の論の中心とそれに至る説明の展開を整理し，他者に説明している。	・筆者の説明の進め方を理解し，本文中の分かりづらい表現を辞書等を活用しつつ，書き換えている。 ・重要なことは繰り返し説明されることを理解し，それらの表現の中でもよりまとめとしてふさわしい部分を選び出し，まとめ直している。

(5) 評価方法と評価基準表

ア 評価方法

言い換えシート（ワークシートⅠ）の記述の確認

リテリングシート（ワークシートⅡ）の記述の確認

イ 「読む能力」の評価基準表

評価A	評価B	評価C
・本文中の難解な語句，筆者独特の言い回しを分かりやすい表現に書き換え，段落を通した内容の把握ができています。 ・筆者の論の中心とそれに至る説明の展開を整理し，他者に説明している。	・本文中の難解な語句，筆者独特の言い回しを分かりやすい表現に書き換え，各部分の意味のまとまりを理解できています。 ・筆者の論の中心を整理し，他者に説明している。	・本文中の難解な語句，筆者独特の言い回しを分かりやすい表現にすることができていない。 ・筆者の論の中心が整理できていない。

3 単元の指導計画

(1) 言語活動と教材

ア 言語活動

本文中の難解な語句，筆者独特の言い回しを分かりやすい表現に書き換えるとともに，筆者の論の中心とそれに至る説明の展開を整理し，互いに説明し合う。

イ 教材

「垂直のファッション，水平のファッション」（鷺田清一，東京書籍『精選現代文B』）

(2) 単元観・教材観

ア 単元観

高等学校3年間の学びの仕上げとして，難解な評論であっても，自分なりに筆者の言いたいことを捉え，まとめ直そうとする姿勢と力の養成を図りたい。それは，単に受験のためというだけではなく，その先にある学びや仕事に向かう姿勢に直結するだろう。

イ 教材観

鷺田清一の評論で，生徒にとって非常に難解であると考えられる。説明に使用されている語彙にカタカナ語，難解な語，筆者独特の言い回しがあり，また，「装う」という行為がもつ意味を考えるという内容も，表面的なファッションの話題ではなく，抽象度が高い。以上の点から，真剣に本文の読解に取

り組まなければ内容の把握に行き着くことができない、と個々の生徒に認識させるのに適した教材である。

(3) 指導と評価の計画（配当時間 6 時間）

次／ 時間	学習活動	言語活動に関する 指導上の留意点	◇評価規準，◆評価方法， ＊努力を要する状況と評価し た生徒への支援の手だて
1 次 (3 時間)	①本文中の難解な語句，筆者独特の言い回しを分かりやすい表現に書き換える。 (二人 1 組で) ②ペアを替え，それまでの自分たちの取組を交換し，よりよい言い換えに取り組む。 ③相互評価，自己評価を行い，学習の振り返りをする。	①ワークシートの点線部を中心に，相談し合いながら，より分かりやすい表現に書き換えさせる。 ○教科書の注や辞書などを活用させるが，辞書的な意味の代入を単にさせるのではなく，文の意味を捉え，分かりやすく言い換えることを目指させる。 ②一人をその場に残し，もう一人は別の机に移動させ，取組の交換をさせる。その後，元のペアに戻り，取組の修正をさせる。 ③次につながるように，建設的な振り返りをさせる。	◇読む能力 知識・理解 ◆記述の確認（ワークシート I） ＊冒頭から言い換えることに固執せずに，たとえ段落の途中からであっても自分の分かるところから言い換えさせる。 ◇関心・意欲・態度 ◆行動の観察（ペアワーク） ◆記述の点検（ワークシート I）



【ペアワークの様子】

2次 (3時間)	(筆者の論の中心とそれに至る説明の展開を整理し、互いに説明し合う。) ①本文の要約に取り組む。 (二人1組) ②互いに、要約を口頭で説明し、相手の批評を受け、よりよいものに手直しをする。 ③ペアを替え、要約説明、相手からの批評を繰り返し、説明を練り上げる。 (ワールドカフェ方式) ④相互評価、自己評価を行い、学習の振り返りをする。	①今回は本文が難解なため、要約例を提示し、参考にしてもよいとする。ただし、要約例を暗記することは不可とする。 ②時間を区切って説明させ、その後、必ず相手からのフィードバックをもらう場を設定する。次に、役割を交換し、取り組ませる。 ③一人をその場に残し、一人は別の机に移動させる。改善点が挙がるように、厳しい批評をさせる。最終的に、元のペアに戻り、説明の質の向上を図らせる。 ④次につながるように、建設的な振り返りをさせる。	◇読む能力 知識・理解 ◆行動の観察 (ペアワーク) ◆記述の確認 (ワークシートⅡ) ◇関心・意欲・態度 *相手の説明を聞いて、自分の説明を練り直すことも認める。 ◇関心・意欲・態度 ◆記述の点検 (ワークシートⅡ)
-------------	---	---	--

4 学習活動の実際

(1) 学習に取り組む生徒の姿

次に示すのは、毎時における生徒の自己評価のコメントや、単元終了後の自己評価のコメントである。

- ・ 相手に向かって説明しようとすることで、今まで以上に理解が深まったと思う。
- ・ 相手と話しながら取り組むと、違う視点からだったりして、自分の読みと比較できておもしろかった。
- ・ 他のグループの人とやると、自分たちでは思いつかないことを知ってすごいと思った。
- ・ ペアを変えるだけで、違ったことがたくさん見えてきて、おもしろいと思った。自分で分かったと思っていたところでも、いざ聞かれると分からなくなったりした。
- ・ (時間を区切っての説明の際、) いつも時間が余るから、まとめすぎないように気を付けたい。詳しくしないといけないところは、もっと情報を入れないといけないなと思った。

また、定期考査直後に、授業アンケートという形でも振り返りを行わせた。以下の質問①～③についての生徒の回答を示す。

質問①「垂直のファッション、水平のファッション」の授業形態について(通常の授業形態と比較しての感想、言い換えシート、リテリングシートなどの教材、ペアワーク、ワールドカフェなどの学習形態、自己評価の活動について等)

(● 複数・多数の回答)

- 難しい内容でも言い換えシートに取り組むことで、すごく読みやすくなった。また、先生のヒントや授業の最後のまとめで、「あー、そういうことか」と納得できてしまう感覚が新鮮だった。
- ・ 言い換えシートのおかげでとても読みやすくなった。いつも分からないことばをあいまいにしながら読んでいたので、内容が分からないことが多いから。
- ・ ペアワークで、二人で意見を出し合って、分かっているのが達成感。
- ・ ペアワークは、自分の知っている全てのものが出されるような感じがして、自分でこんなことを考えられるんだと気付かされたし、自分の意見だけでなく相手の意見も知ることができて、世界が広がるような気がして、おもしろかった。
- ・ 通常の授業だと、「どうして、ここがこうなるんだろう？」と思ったところがあっても、質問しないでそのままにしばらく時間が多かったけど、ペアワークだと友達と自分たちのペースで取り組めたし、分からないところも突き詰めることができた。
- ・ 友達とすごく頭を使って考えるから、内容が結構分かった。頭が「ギューツ」と使われている気がした。
- ・ 逆に、ペアワークが多すぎてやりにくかったときもあった。
- ・ 言い換えシートに取り組む際に、何回も何回も教科書を読み直した。これまで、こんなにも教科書を読み込んだことはなかった。
- ・ 通常の授業形態だと、他の人が当たっているときに、どうしても自分で考えることをしないで答えを聞くだけになってしまうので、ペアワークがいい。
- ペアの人の考えを聞いて、「あー、なるほど」と思うことがあったし、二人分の考えが出し合えるので理解が深まった。しかし、よそ事を話してしまうグループもあるし、自分もそういうことがあったので、そこは反省したいが、自分次第の方式だなと思った。
- ・ まとめたときに満足できるものでなかったら、周囲のペアに教えてもらったりしてよいものができて理解が深まった。
- ・ ワールドカフェで他のグループの子との情報交換はすごくよかった。
- ・ 通常の授業の方がいい。自分には考える力がそもそもないので、「考えろ」と言われても、あの難しい文章では厳しい。通常の授業でも寝てしまうけど、自分はあの形式でも寝てしまった。

質問② 授業形態と定期考査（「垂直のファッション、水平のファッション」部分）について

- （できるかどうか不安だったが）やはりペアと理解を深めた分、割とすらすらと解けた。
- ・ たぶん黒板でどんどん進められる授業だったら、ノートに写して、あまり考えることをせずに、直前に『学習課題ノート』を覚えてテストを受けていたと思うから、理解してテストに臨めてよかった。
- ・ 答えを覚えたとかではなくて、理解していたので解きやすかった。
- 自分達で必死に理解しようとする分、テストのときに本文が頭に入ってきてやすくて今までよりも手応えがあった。
- ・ きっと自分で教科書を読んだだけだったら、この教材の範囲の問題はできないと思ったが、グループでやることにより、自分の意見を発表することで、より内容が印象に残った。
- ペアワークで理解は深まったつもりだったけど、あまり出来はよくなかった。

質問③ 授業形態と実力養成との関係性について

- ・ 自分たちのペースでじっくりと読めたので、いつもなら分からないところまで分かるようになっていた。
- ・ リテリングシートで、自分の言葉に置き換えてまとめる力がついたと思った。
- このやり方だと、いずれ力がついてくるだろうと強く感じた。
- ・ 文章を読む力はついたと思った。
- ・ 文章を要約することで、長文問題を少し解けるようになった気がする。
- ・ 今年の授業で、グループ活動やペア活動に取り組むようになってから、自分なりの読み取りをした上で、問題の選択肢を見るようにしたら、「これだ」という選択肢が3Dってぐらいに浮き出てくるが多くなった。

(2) 「身に付けさせたい力」の実現状況

- ・ (分からないなりに) 生徒同士で本文と「格闘」する時間を確保することで、本文の分かりづらいつところを授業担当者が説明した際に、「あー」「そういうことか」という声が自然に生徒たちから上がった。これは、ふだんの授業ではありえない反応であった。
- ・ 生徒の振り返りのコメントは、抽出した上で、次の授業の初めに紹介をした。生徒たちの聞き入ろうとする姿勢もいつもよりも強く、内容としても授業の導入として有効であった。
- ・ 難解な文章を理解させようとする、従来は、授業担当者が本文には出てこない説明や具体例を挙げるなど、一方的な指導になりがちであった。今回、生徒の読解の最中の机間指導で、(分からないなりに)「よい具体例を挙げてみたらどうだろう」と刺激したところ、中には的確なものもあった。それを全体に紹介し、大いに褒めたところ、他の生徒の意欲も向上した。
- ・ 言語活動を含む生徒の主体的な取組を重視する授業形態をとったことで、授業担当者が「教える人」から「ともに考える人」になることができ、「どう説明しようか」という考えに縛られることなく、心に余裕をもって生徒に対することができた。その余裕が、助言を与える際の、分かりやすさにもつながったようである。ある生徒の「この授業は、いっぱい褒めてくれるね」という発言が印象的である。
- ・ 生徒の感想に「ペアの二人では分からないところがあったので、6人ぐらいで話し合って、途中で途中で先生が説明してくれるといい」とあり、本文の難易度や生徒の状況に応じて、グループの人数や与える課題の段階に工夫が必要である。また、「話し合いをした後の先生の補足みたいなものがもっとあるといい」には、教員の介入の度合いやバランスを追求し続けていくことで対応したい。もう一点、「一人で読む時間(問題を解く時間)も欲しいと思った。全文を一度通して読んでみないと、詳しく読むにしても読みにくい」という指摘もあり、個人で考える時間を確保することも考慮する必要がある。
- ・ 生徒の能力の向上が認められなければ、単なるパフォーマンス要素の強い授業で終わってしまうので、授業時の評価だけでなく、定期考査での結果がどのようなものか気がかりであった。結果は、同類型同習熟度間の比較をした場合、取組を行った3期考査以降、格段の向上を見せた。特に、得点中下位層の底上げが見られ、授業中の活動の活発さが考査のよい結果につながった。

5 おわりに

冒頭にも書いたように、本文の読解により能動的に取り組むように仕向けなければ、国語の力の養成ができないという危機感から始めた実践であるが、「このような大ざっぱな仕掛けでいいのか」という疑念も抱きつつ、生徒とともに進めていったというのが正直なところである。

非常に難解な評論教材だと想定されたが、逆に、「難しい中でも、なんとか分かりそうなところから読み取っていくしかない」という覚悟ができたのか、生徒は予想以上に能動的に取り組んだ。ペアやグループでの活動を織り交ぜたことで、周囲から刺激を受けるといった意欲面の向上だけでなく、正に「教え合い」ながら、学びが深まっていく体験ができた生徒も多かったようである。

今後も、活動やその手法、適した教材の選定などへの試行錯誤を重ねつつ、論理的思考力の養成がより系統的なものになるように工夫していきたい。

また、そのためにはより適切な評価方法の研究も必要だと思われる。しかし、その一方で、生徒は教員による評価も気にはするが、周囲の生徒からの「なるほど、そういう読みができるのか」、「ああ、そういうことなのか。分かりやすいね」というような認められる経験が非常に大きな意味をもつことを痛感させられた授業実践でもあった。

ワークシートⅠ

垂直のファッショ、水平のファッショ 言い換えシート(例)

鷲田清一

組 番 氏 名

★

できるだけ自分で読解して、底力をつけよう！

済 形式段落番号をつけよう。

② 意味段落に分けてみよう。(段落の境目に―線)

③ 筆者の論の中心となる部分(ポイント、キーセンテ、キーワード)にマーカー(線)を引こう。

④ 段落構成図や意味段落の要約をしてみよう。

① 難しいことばをわかりやすく言い換えてみよう。(点線部＋アルファ)

- ・ 専門用語 ↓ 一般的な語
- ・ カタカナ語 ↓ ひらがな語
- ・ 比喩(たとえ) ↓ 何をたとえているか など

② どうしてそのような要約(例)になるのか、その過程を説明し合ってみよう。

① ファッショとは「鏡」の現象……

本文(省略)

本文を、一時間で読むのに適当な分量に区切り、難解な表現(言い換えによって、意味を確認することが必要だと思われる部分。専門用語、カタカナ語、比喩など)に傍線を施してある。
※言い換えシート、リテリングシート
共通

……の最も重要な媒体となるものである。

相互評価(黒)、自己評価(赤)

① 積極的に相談し合い、問題の解決に取り組みましたか？

② 内容の理解が進みましたか？

コメント・感想

A	A
B	B
C	C

ワークシートⅡ

垂直のファッション、水平のファッション リテリングシート(例)

組 番 氏 名

①ファッションとは〈鏡〉の現象：

本文（省略）

本文を、一時間で読むのに適当な分量に区切り、難解な表現（言い換えによって、意味を確認することが必要だと思われる部分。専門用語、カタカナ語、比喩など）に傍線を施してある。
※言い換えシート、リテリングシート共通

…の最も重要な媒体となるものである。

要約例

ファッションという〈鏡〉

〈私〉は自分の解釈だけでは織り上げられない存在であるため、絶えず他者と視線を交換し他者の視線を内に取り込んでいくことで〈私〉という〈イメージ〉を互いに調整し合う。

人々はそれぞれのセルフ・イメージを補強し、相互に調整するために装うのであり、装い（ファッション）とは、人々が互いに自己を映し合う〈鏡〉の現象の最も重要な媒体である。

相互評価（黒）、自己評価（赤）

① 積極的に相談し合い、問題の解決に取り組みましたか？

A B C

② 内容の理解が進みましたか？

A B C

コメント・感想